

最高裁の弁護士は死刑執行まで背負う。
遺体を引き取り、葬式を出す。

付き合っている人やで、
「ほな、さいなら」とは、いかんやないか。

仙台弁護士会

「弁護士会ウィーク」開催イベント

死刑を考える日 映画「死刑弁護士」上映会

日程：2018年2月4日(日)

会場：せんだいメディアテーク

入場無料

予約不要



麻原彰晃

「オウム真理教事件」

林真須美

「和歌山毒カレー事件」

木村修治

「名古屋女子大生誘拐事件」

元少年

「光市母子殺害事件」

丸山博文

「新宿西口バス放火事件」

悪魔の弁護士と

呼ばれても、なお

弁護士

安田好弘(64)

死刑弁護士

第66回文化庁芸術祭テレビ・ドキュメンタリー部門優秀賞受賞

ナレーション◎山本太郎 | プロデューサー◎阿武野勝彦 | 音楽◎村井秀清 | 音楽プロデューサー◎岡田こずえ | 撮影◎岩井彰彦

音声◎伊藤大介 | スクリプター◎河合舞 | 題字◎山本史鳳 | CG◎東海タイトル・ワン | 音響効果◎久保田吉根 | 編集◎山本哲二 | アソシエイトプロデューサー: 安田俊之

協力◎フジテレビ、関西テレビ、テレビ西日本、テレビ新広島 | 監督◎齊藤潤一

製作・著作・配給◎東海テレビ放送 | 配給協力◎東風 | 2012年 | 97分 | HD | 16:9 | 日本 | ドキュメンタリー

<http://shikeibengonin.jp>



あなたの正義の根拠は何ですか？



マスコミや検察の情報を鵜呑みにし、自分たちは絶対的な正義なのだと思ひ込み、被疑者へのバッシングを繰り返す私たちに、本作は投げかける。なぜ、いつも自分たちが正しいと思えるのか？

安田好弘とは尽きるところ何者なのか。かれはなぜ、わが身を顧みずに困難な弁護活動に命を削るのか。なにゆえこうまで権力の不正を憎むのか。どうして割に合わない仕事を引き受け、全霊で全うしようとするのか……。

これらへの答えは、骨の髄まで腐った国家と社会の暗部にむけた、かれの怯まぬ眼差しと憤怒から、演繹されなければならない。われわれは弁護人・安田好弘を必要としている。このドキュメンタリーはそのことを諄々と証そうと試みている。

私は死刑存置派である。だが、強固なまでにそれを主張できるのは、死刑弁護人・安田好弘がいるからである。この映画は、あらためてそのことに気づかせてくれた。

観終えて思うのは、全身弁護人というフレーズだ。視点が違えば景色が変わる。それは当たり前。でもこの映画は、あなたの世界そのものを根底から揺さぶるはずだ。

世の中、盲目的に多数派に流れる方が楽に生きてゆける。そうではない、安田弁護士の「人」そのものをみつめる眼差しは、やさしさに満ちている。今、ひとりひとりが自分の「目」はどうなのだろうか？……と、問わなければいけない。

郷田マモラ……漫画家



死刑事件を請け負う弁護士は少ない。極悪人の代理人。人殺しを弁護する人でなし。世間から様々なバッシングを受けるだけでなく、人命が奪われた事件を通し、加害者と被害者双方の悔恨や悲嘆に苦悶することになるからだ。

安田は、顧問弁護士を務める会社の事件に関連して、強制執行妨害の罪で自らも逮捕される。しかし、それでもなお彼は、自らの職責として弁護士を全うし続けたという。

「事実を出して初めて本当の反省と贖罪が生まれる。どうしたら同じことを繰り返さずに済むのか、それには、まず真実を究明しなければならない」。安田は、「悪魔の弁護人」と呼ばれようとも、依頼人を背負い続ける。

貧困と富裕、安定と不安定、山手と下町。凄惨な犯罪は境界で起きることが多い。安田は、こう考えている。生まれ育った環境が生む歪みを見無視し、加害者を断罪することに終始することが、事件の「解決」と言えるのか。「誰が何を裁くのか？」裁判は、犯罪を抑止するために、材料を洗い出す場でもあるはずだ。安田の生き様から映し出されるのは、この国の司法のありようだ。『平成ジレンマ』『青空どろぼう』の東海テレビが放つ劇場公開ドキュメンタリー最新作。

郷田マモラ……漫画家

死刑弁護人

<http://shikeibengonin.jp>

ナレーション 山本太郎
プロデューサー 阿武野勝彦
音楽 村井秀清
音楽プロデューサー 岡田こすえ
撮影 岩井彰彦
音声 伊藤大介
スクリーンライター 河合舞
監修 山本史風
CG 東海タイトル・フジ
音響効果 久保田吉根
編集 山本哲二
アシリエイト プロデューサー 安田俊之
協力 フジテレビ 関西テレビ テレビ西日本 テレビ新広島
監督 齊藤潤一
製作著作 配給 東海テレビ放送 配給協力 東風

2018(平成30)年2月4日(日)10:30~/13:00~/15:30~
●会場: **せんだいメディアテーク 7階 スタジオシアター** (仙台市青葉区春日町2-1)
●主催: 仙台弁護士会 ●共催: 日本弁護士連合会(予定)、東北弁護士会連合会(予定)
入場無料・予約不要 (どなたでも観賞できます) ●お問い合わせ先: 仙台弁護士会 電話 022-223-1001(代)